

審 議 会 会 議 録

会議名称	平成29年度 第1回伊達市放課後子ども教室運営委員会議		
議 題	議事 ①委員長・副委員長の選出 ②平成29年度 伊達西小学校放課後子ども教室事業内容について		
開催日時	平成29年 5月23日（火） 18：00～19：40		
場 所	伊達西小学校 会議室		
出席委員	小林浩路 委員長、青木一也 副委員長、馬場一憲 委員、武者ますみ 委員 勝木真弓 委員、上埜幸喜 委員、藤本恭子 委員、星洋昭 委員（計8名）		
	所管部課名	教育部生涯学習課	
公 開 非 公 開 の 別	<input checked="" type="checkbox"/> 公 開	傍聴者の人数	なし
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	
<p>【審議会の概要】</p> <p>1. 開会（事務局：生涯学習課長）</p> <p>2. 教育部長挨拶（教育長代理）</p> <p>3. 運営委員・事務局自己紹介</p> <p>4. 委員長・副委員長選出 【事務局案了承、以降委員長による議事進行】</p> <p>5. 協議 平成29年度 伊達西小学校放課後子ども教室事業内容について</p> <p>（1）経緯について</p> <p>（2）「学習の日」と「遊び・交流・体験の日」について</p> <p>（3）伊達西小学校放課後子ども教室タイムスケジュールについて</p> <p>（4）伊達西小学校放課後子ども教室年間実施予定日について</p> <p>（5）伊達西小学校放課後子ども教室「遊び・交流・体験の日」予定について</p> <p>（6）運営スタッフ（有償ボランティア）の体制について</p> <p>【事務局より説明】</p> <p>【質疑・意見交換】</p> <p><input type="checkbox"/> 委員 放課後児童クラブとの重複登録ができるのかどうか。</p> <p>●事務局 重複登録は可能。現時点での登録者数は75名、うち放課後児童クラブ（以下「児童クラブ」と記載）との重複登録者児童は25名程度です。重複登録児童は、放課後子ども教室（以下「子ども教室」と記載）終了後に児童クラブに登所することになります。</p>			

□委員

登録児童の学年別傾向についてはどうか。

●事務局

3学年は児童の絶対数が多いことから申込数も多く、高学年はクラブ活動や習い事で多忙なのか申込者数は少ないです。1学年が少ない理由は不明です。

□委員

事業の目的の中に、「事業を通じ、世代間・学年間の交流や、学校と地域の方々との繋がりが深まること」とあります。

年間スケジュールでは「学習の日」が多く、保護者が補習的な思惑でこの事業に参加させるのであれば、目的の趣旨からずれているような気がします。

「体験の日」メニューをもっと増やす予定はないのでしょうか。

●事務局

子ども教室は、それぞれの自治体における重点目標があり、メニュー作りを行っています。伊達市としては、学習に重点を置いています。プリント学習による効果ということよりも、プリント学習をとおして学習習慣の定着を身に付けさせることを目標としています。そのような目標から、今年度の伊達西小学校放課後子ども教室のプランを作成しました。

学年ごとの割合としては「学習の日」と「体験の日」が2：1となっています。当初は2：2の割合で検討していましたが、ボランティア確保が大変難しいことなどから、計画倒れにならないようなプランとしました。

しかしながら、少人数スタッフでも実施可能な「体験の日」メニューの開発や、保護者や児童からの子ども教室開催ニーズの増、スタッフを順調に手配できる体制の構築が可能になれば、「学習の日」「体験の日」の回数を増やせると思います。秋頃に開催予定の運営委員会には、事業も何度か実施済みであり、それを踏まえた協議・検討もできるものと考えています。

□委員

児童クラブ側としては懸念されることはあるのでしょうか。

●事務局

子ども教室から児童クラブへの、確実な児童の引き渡しを行うことが最重要事項と考えています。

学校、子ども教室及び児童クラブの3者が共通の出席予定表を確実に共有することで、児童の居場所が分からなくなる事故等が発生しないように努めます。

□委員

児童クラブに登録している保護者は、子ども教室事業に期待を寄せています。

児童クラブでは、児童数が多すぎて、学習意欲のある児童にじっくりと向き合えず歯がゆく思っており、そのような児童には非常に有意義な事業と思います。

学習の日のプリント学習では、児童により進捗状況が異なると思いますが、プリント枚数等についてはどのように考えていますか。

●事務局

児童により進捗状況が異なることは想定しています。毎回数種類のプリントを用意する予定です。用意した分が時間内に終了した児童については、予習復習を行わせる予定としています。

時間内に終了しても、事業終了時間に一緒に帰宅させるので、途中退出は認めておりません。

□委員

児童クラブの登所は事前の出欠登録や管理を徹底しています。出欠登録と異なる場合には、必ず保護者に連絡をとり確認を行っています。

年度当初について、低学年については学校まで迎えに行っています。

子ども教室終了後の児童クラブへの登所についてはどのような方法を考えていますか。

●事務局

先ほどの出席予定表で、子ども教室から児童クラブへ登所する児童情報は共有できると考えている。なおかつ、低学年児童については、子ども教室スタッフが児童クラブまで引率して引き継ぎを行う予定である。

□委員

子ども達にラジオ体操カードのようなものがあれば、子ども達自身が出欠確認を、保護者も帰宅後に出欠を確認できると思います。

□委員

児童クラブの立場で述べると、ほとんどの児童について保護者等が迎えに来ることから、出欠確認という意味合いではカードは必要がありません。

ただし、両方参加するような児童については、出欠について確認できる、なんらかの仕掛けを考えても良いかもしれないですね。

●事務局

子ども教室でも、出欠予定表と異なる状況では必ず連絡先に確認を行うこととしています。出欠予定表は学校、児童クラブとも共有するので、それぞれの担当がきちんと把握していれば、イレギュラーな動きをしている児童の把握対応もできると考えています。

□委員

本来、児童クラブに登録しているような児童は、すべて子ども教室に重複登録するような気がしますが、現状では、そうでないことに少々疑問を感じます。

つまり、家庭の事情で児童クラブに行かざるを得ない児童は、保護者が迎えに来るまで「特定の目的」が無い状態で児童クラブの中で過ごしているのであれば、保護者は何らかの成果がある（と思われるはずの）子ども教室に、敢えて参加させない理由がないと思うのです。

児童クラブの目的は、児童を無事に保護者に引き渡すことであるので、それまでの時間を有意義に（子ども教室）使うことができると考えれば、児童に対して勉強や体験をさせた方が良く考えるのではないかと思うのです。現状がそうでないことは、子ども教室の認知不足だと思います。認知されるに従い、登録児童が増えるかもしれないですね。

登録児童が増えた場合、登録人数上限とか事業参加制限とかが発生する可能性はあるのでしょうか。

●事務局

現在、登録人数 75 人は妥当な数値と思っています。予算上は全校生徒の約 3 分の 1 である 100 人程度と見込んでいました。想定数以上になれば嬉しいが、補正予算等で対応しなければならないかもしれないです。

制限としては、予算よりも物理的な制限、つまり活動場所の確保やボランティアスタッフの人員配置から、活動できる上限が出てくる可能性はあるかもしれません。

ただし、現時点では、そこまで逼迫する可能性はないと判断しています。

□委員

スタッフは4人体制で実施とあります。コーディネーター1名、学習指導員1名、安全管理人2名とありますが、学習の日に、学習指導員1名では心もとないのではないのでしょうか。

●事務局

4人体制は基本体制と考えています。事業開始当初や「体験の日」などには人手が必要なので、増員し適切な人員配置で事業を実施します。また、コーディネーターも学校勤務経験があるので、学習指導員を兼ねることとしています。安全管理人は学習指導できませんが、プリントの正誤チェックは可能とし、学習指導員の業務補助も行う予定です。基本的な人員配置については、今後随時見直していくつもりです。

□委員

ボランティアスタッフの登録者が多くなれば、毎回参加しなければならないボランティアとかが少なくなるのでしょうか。

●事務局

そのとおりです。スタッフは有償ボランティアであり、都合で参加できない場合があることは想定しています。コーディネーターが、参加できるスタッフを調整します。参加可能なスタッフが沢山の場合、場合によっては参加をお断りする場合も出てくるかもしれません。逆に、スタッフが少ない場合は、教育委員会の職員も手伝うこととなります。スタッフは多いほど運営に余裕が出てきますので、募集登録について知り合いの方々にもよろしくお伝え願います。安全管理人については特段資格等が必要ありませんが、学習指導員は教員経験者を希望していますので、なかなか該当者が見つからないのが実情です。今後、子ども教室を全市的に開催しようとした場合でも、一番のハードルがボランティア確保と考えています。

□委員

都会であれば教員を目指す学生や、育児などで教員を退職した方など、潜在的な人員が多くいると思いますが、伊達は伊達独自のやり方でこの問題点を克服して、事業を進めてほしいと思います。

□委員

体験の日の事業内容は単発的なものか、継続的なものか。子ども達が選択可能なプログラムについてどう考えているのでしょうか。

●事務局

本日示したプログラムは、すべて市側で企画しています。現時点では一つのことを継続し、「クラブ活動」のように発展することは、子ども教室事業としては考えていません。翌月のプログラムについては、「教室だより等」で具体的内容を提示し、出欠希望を取りますので、児童自身による出欠の判断はできると考えています。「体験の日」プログラムをとおして、いろいろなことを経験し、興味がある分野の習い事を始めたり、クラブ活動に参加するきっかけになることがあれば、子ども教室の成果だと思えます。是非「体験の日」のアイデア（事業内容、人選等）を提案してください、かつ、地域住民の方が参加できるのであれば、なおさら本事業の趣旨に合致するかなと

思います。

□委員

この事業はどのくらい長く継続していこうと思っ
ていますか。

●事務局

現時点では、「何年で終了する」といった事業期間は考えては
いません。財政が極端に悪化すれば別ですが、国・道の補助も入
っておりまして、市としても将来の伊達市を担う教育の分野で
すから、ニーズがあれば継続可能な事業と考えています。

継続性で言うと、地域住民の協力が大きな鍵になるかと思
います。この事業の理念にあるとおり、地域住民が地域の子
ども達に何かをしてあげたいという気持ちが高まれば、自
発的で継続的な事業になって行くと思われま

□委員

一年後に、この事業に参加した子ども達や保護者の反応が
気になります。そこで、良い反応を得られる事業となるた
めに、「我々委員に対して、行政は何を期待しているのか」、
最後に聞かせていただきたいのですが。

●事務局

委員の皆様の忌憚ない意見を期待しています。行政は、現
場がわからないことが多く、現場をご存じの皆様の意見は
非常に有用であります。

□委員

「積極的な事業への参加や見学」と言っ
てほしかったです。事業の内容を知らな
ければ、我々は意見も言えないです。

●事務局

是非、委員の皆さんや地域の方々には事業を見に来てい
ただき、参加（協力）して頂ければと思
います。

ただし、学校ですので、自由に出入りすることはできません。
当日の午後1時までに連絡頂ければ、参加・見学ができるよ
うにネームプレートを準備したいと思
います。

本日の会議終了後、活動場所の見学会を行います。時間が
あれば是非参加願いま
す。

□委員

申込締切が5月19日となっておりますが、まだよくわか
らない保護者の方も多
いと思います、事業開始後の参加申込も可能でしょうか。

●事務局

随時受付可能です。申込書類は、生涯学習課に備えつ
けておりますし、送付す
ることも可能です。

6. その他

【特になし】

7. 閉会（小林委員長）

